

# 歩容と個人特性

## — 「見せたい自分」と「見られる自分」は一致するか —

天野 梨咲<sup>†</sup> 正田 悠<sup>††</sup> 坂本 晶子<sup>†††</sup> 阪田 真己子<sup>†</sup>

† 同志社大学文化情報学部 †† 立命館大学スポーツ健康科学部 ††† (株)ワコール人間科学研究所

### 1. はじめに

私たちは、普段家族や友人が顔も見えないくらい遠くにいたとしても、その歩き方から誰であるかを特定することができる。このように、歩容には歩行者の個性が表れることが明らかになっている(菅原ら, 2019)。しかし、過去の研究では、個人属性との関係や他者が歩容から受ける印象について、それぞれ個別に検討がなされており、同一の歩容を基盤とした「自分が思う自分(自己評価)」と、「他人から見た自分(他者評価)」の関係についてはあまり言及されてこなかった。そこで本研究は、自分が「見せたい自分」と他者から「見られる自分」の関係について歩容特性から検証することを目的とする。

### 2. 歩容収録と特徴抽出

本実験は、大学生・大学院生 70 名(男性 33 名, 女性 37 名, 平均年齢 21.17 歳  $\pm$  2.19 歳)に対して、実験室間を移動する自然歩行をビデオ収録した。その後、自己の理想、個人特性に関するアンケートに回答を求めた。

OpenPose(Cao, et al., 2018)による二次元座標データ取得後、菅原ら(2019)、Jacquelin Perry et al.(2010)を参考に各関節角度から 165 の動作変数を算出し、主成分分析により 7 つの主成分(歩容特性)を抽出した。

### 3. 印象評価実験

2. で収録した中からデータに欠損がない 45 名(男性 21 名, 女性 24 名, 平均年齢 21.71 歳  $\pm$  0.70 歳)分の歩行アニメーション(図 1 参照)を作成し、他者評価(一般的自己呈示イメージ尺度)をおこなった。

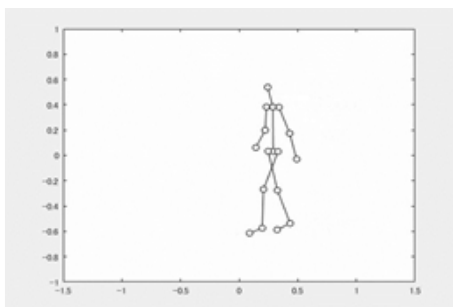


図 1 OpenPose から作成した歩容アニメーション

### 4. 結果

他者評価で得られた印象評定に対して因子分析をおこなった。その結果、「体育会系」「文化系」「威圧的」の 3 因子が得られた。この因子構造にしたがって、自己評価と他者評価、それぞれに対して各因子を構成する項目の素点を単純集計した。これをそれぞれの印象得点とし、分析に用いた。

#### 4.1. 自己の理想と他者評価

自己の理想が他者評価に表れているのかを調べるため、各印象得点について Pearson の相関係数を算出した。その結果、すべての印象特性で自己の理想と他者評価には相関がないことが明らかになった。

#### 4.2. 歩容特性が自他の印象に与える影響

自己の理想と他者評価がどの歩容特性に表れるのかを調べるため、それぞれの印象得点と歩容特性について、Pearson の相関係数を算出した。その結果、自己評価では「体育会系」に見られたい人と四肢の振りの速度のばらつきの方に負の相関、「文化系」に見られたい人と四肢の躍動性の方に正の相関がみられた。他者評価では、「文化系」に見られている人と四肢の躍動性の方に負の相関、「威圧的」に見られている人と体軸の後傾度・頭のうつむき度の方に正の相関がみられた。自己評価と他者評価で異なる歩容特性に相関がみられることから、印象を特徴づける歩容特性は自己の理想と他者評価で一致しないことがわかった。

### 5. 考察

「見せたい自己」は歩容に表れず、「見せたい自分」と「見られる自分」は一致しないことがわかった。ここから、私たちが普段歩いている姿は、他者に「見せたい自分」ではないといえる。したがって、過去の研究で示されている個人属性との関係や他者が歩容から受ける印象は、それぞれ個別でステレオタイプとして存在していると考えられる。

本研究では印象が「体育会系」「文化系」「威圧的」の 3 因子抽出されたが、もともとの一般的自己呈示イメージ尺度は 9 因子であり、かなり小さく集約された。このことから、骨格情報のみからは正確な印象は予測不可能であることがいえる。しかし、逆に言うと骨格情報のみになったとしても伝わってしまう印象も存在するということである。その印象は装飾品(ビジュアル、服装、髪型など)があるときの印象の土台となるものであるといえるだろう。

### 参考文献

- Cao, Z., et al. "OpenPose: realtime multi-person 2D pose estimation using Part Affinity Fields." arXiv preprint arXiv:1812.08008 (2018).
- Jacquelin Perry et al. : GAIT ANALYSIS Normal and Pathological Function, 2, SLACK Incorporated, pp.551, (2010).
- 菅原 他:歩容特性が対人的印象に与える影響～光点歩行者における対人魅力、心身状態、擬態表現～, 聖心女子大学論叢, 133, pp.28-52, (2019).